

心臓手術	傾向スコアマッチング前		傾向スコアマッチング後		リスク差	P値
	対照群	IAD群	対照群	IAD群		
総数	30,811	1,622	1,233	1,233		
赤血球製剤使用割合, %	76.7	40.6	60.6	38.4	-22.2	<0.001
新鮮凍結血漿使用割合, %	71.8	37.3	53.1	34.4	-18.7	<0.001
血小板製剤使用割合, %	42.9	19.1	27.7	18.6	-9.1	<0.001

大血管手術	傾向スコアマッチング前		傾向スコアマッチング後		リスク差	P値
	対照群	IAD群	対照群	IAD群		
総数	3,983	284	197	197		
赤血球製剤使用割合, %	94.8	83.1	91.4	83.8	-7.6	0.037
新鮮凍結血漿使用割合, %	96	81.7	91.9	82.7	-9.2	0.016
血小板製剤使用割合, %	88.8	78.2	76.6	76.1	-0.5	1

心臓血管外科手術における希釈式自己血輸血と周術期輸血割合・輸血量の減少との関連をDPCデータを用いて評価した。予定入院後に心臓・大動脈手術を受けた32,433例と4,267例を対象とし、マルチレベル傾向スコアマッチングを行った。日本人患者の場合、欧米で推奨されている大量希釈式自己血輸血でなくても、輸血率や輸血量を減少させる可能性があることが示された。